

はじめに

学校評価アンケートは、文部科学省が次のようにガイドラインと目的を提示しています。

「教育活動等の成果を検証し 必要な支援・改善を行うことにより、児童生徒がより良い教育活動等を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指し、教育の水準の向上と保証を図ることが重要である。また、学校運営の質に対する保護者等の関心が高まる中で、学校が適切に説明責任を果たすとともに、学校の状況に関する共通理解を持つことにより相互の連携協力の促進が図られることが期待される」

これらのことから、本校も学校の教育活動、その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図ること、本校の教育の質の向上、学校運営の改善を目指すために外部にも公表を行うことにしています。

アンケート結果を受けて

ここ数年、生徒、保護者共に本校が、キリスト教の精神に立った全人的な教育を行っているという「建学の精神」を大切にしている認識が高くなってきているように思えます。この点について教職員が厳しい評価であるのは、この方針に否定的回答というよりも、本校の教育活動においてより具体的に深めていく工夫が必要であることの認識があることを示していると捉えます。また教職員は他校との比較においてのキリスト教育を行う礼拝堂や行事等の設備が不十分であるという事も厳しい評価になっていると思われる。これらの点については、長期的に計画をして構想をしていきたい。

大学の附属高校というメリットを活かし、指定校推薦による進学指導は充実しており、独自のオープンキャンパスや、大学教員による説明会など時期を見極めながら進学指導の機会を設けていることが評価されている。しかし、一般受験に対応するための外部模試は十分に活用できていないと認識されている。学内の定期試験、評定平均は、学内における評価の指標であるが、全道、全国の中では非常に狭い集団での評価に過ぎず、外部模試は道外の高校も含めた他校の学力との客観的な指標である。本校で自己完結せずに、外部模試等の活用によって学力向上の取り組みの一層の工夫が必要である。

入学段階において生徒の学力層の幅が広いいため、補習や講習、定期試験前の大学生による学習支援アシスタントなどによって、きめ細やかな指導を工夫しており、学力が向上しているという実感を持つ生徒が多いことは評価できるだろう。学生支援アシスタントは、2018 年度から英検の二次対策にも活用し、その効果が合格率を上昇させている。有効な活用の工夫と分析をしつつ今後も継続して行う。

生徒が主体的に授業に取り組む ICT を活用した授業を模索している教科がある。教室のモニター設置、全教室の Wi-Fi 設備など、施設は順調に整備されてきた。またタブレット PC（リース契約）を全生徒に配布するなどを行った。まだ教員も模索状態ではあるが、徐々に活用が浸透してきている。大学入試で活用が予定されるポートホリオの準備に備えて生徒自らが入力を積み重ねている。この点について公的な補助が受けられたことで、より ICT を用いた教育が推進することができた。

生徒達が安心して学校生活を送れるよう、いじめの問題を把握するアンケートを定期的にも実施している。また各教員が情報を共有し合い、生徒達が人間関係の中で成長できるように取り組んでいる。生徒向けの講演会、学年集会での呼びかけなどを通して意識を高めている。その点は生徒からも評価されてい

るが、SNS 上での大人が見えない部分でのトラブルなどもあり、すべての生徒が安心できる環境とは言えない。今後も継続しより細やかに対応できるように一層の努力を行っていききたい。

本校は保護者と教師との信頼関係を大切にしてきた点は評価してもらえた。細やかな対応を追求すればするほど、教員不足と多忙感がそれを妨げていることを否めない。そのような中で、働き方改革を進めつつ、教員が、正確な情報を、適切なタイミングで、配慮ある言葉をもって生徒に伝えるために、教員間のチームワーク、弱音を吐ける信頼関係、コミュニケーションに必要なスキルを互いに研鑽していききたい。